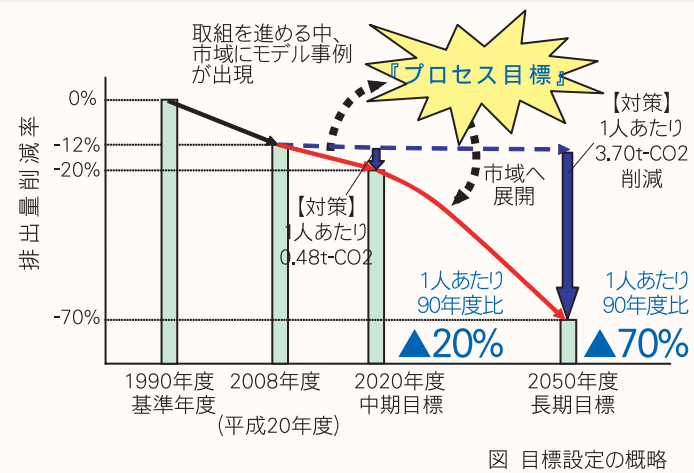




## 茨木市の目標は？

中期目標：市民1人あたり90年度比▲20%  
 長期目標：市民1人あたり90年度比▲70%  
 に加え、長期的な大幅削減に繋がるよう  
 「プロセス目標」を設定します。  
 「プロセス目標」は、各主体の意見を反映させながら、今後計画推進の中で設定していきます。



## どのように進めるの？

### ●推進のための仕組み ～市民・事業者との連携体制～

下記の体勢により、本計画を、市民、事業者、市が連携しながら推進していきます。

推進委員会：計画に基づき、施策等のアドバイスを行う。  
 プラットホーム：関係する主体が集まり、情報や意見を気軽に交換する場。  
 部会：必要に応じて設置し、テーマごとに実践的に活動を行う。

※関係団体とは、低炭素地域づくりに取り組むNPO等の市民団体や任意団体等を示す。

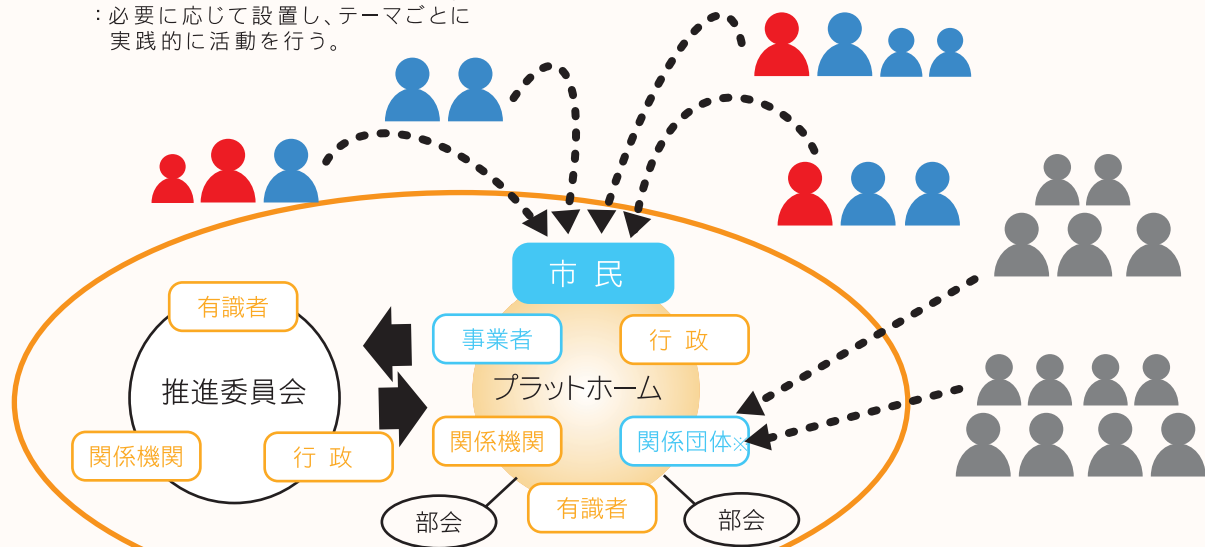


図 推進委員会・プラットフォーム等組織イメージ



彩都地域でのコミュニティサイクル事業  
 (出典：彩都低炭素タウン推進協議会)



里山センター(森の学び舎(茨木市大字泉原))



## 茨木市 地球温暖化対策 実行計画概要版



## 次代の低炭素社会へあゆむまち 茨木

- ①環境にやさしいライフスタイルが普及しているまち
- ②多様な暮らし・なりわいができるまち  
～再生可能エネルギー導入、熱の活用～
- ③人にも環境にもやさしく移動ができるまち
- ④環境負荷が小さいまちづくりが進んでいるまち
- ⑤環境意識が次世代へ継承されるまち  
～環境・エネルギー教育の推進～

平成24年3月

茨木市産業環境部環境政策課

〒567-8505  
 大阪府茨木市駅前三丁目8番13号  
 茨木市役所本館2階 (15番窓口)

電話：072-620-1644 Fax：072-627-0289  
 E-mail：kankyoseisaku@city.ibaraki.lg.jp

茨木市

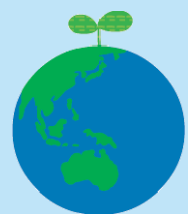
検索

<http://www.city.ibaraki.osaka.jp/kikou/sangyo/kankyos/index.html>



茨木市

茨木市地球温暖化対策実行計画は、茨木市における市民・事業者・市など、市内のあらゆる主体が率先して、地域の特性を踏まえた温室効果ガス排出量削減を総合的かつ計画的に実施するため、策定しました。取り組みを行う市民・事業者・市などの共通の指針となります。



## 地球温暖化とは？

### ●地球温暖化の現状

近年、化石燃料の使用等といった人類の活動によって二酸化炭素、メタン、さらにはフロン類などの温室効果ガスが大量に排出され、大気中の濃度が高まり熱の吸収が増えた結果、気温が上昇し始めています。これが地球温暖化です。

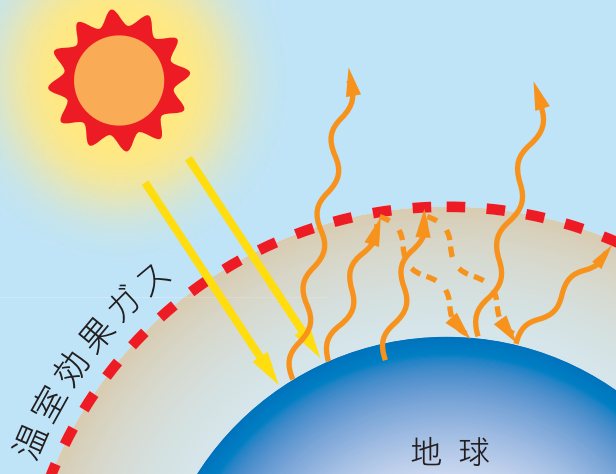
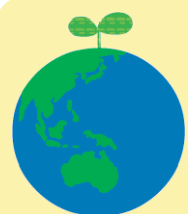


図 温室効果のメカニズム



## 茨木市の現状は？

### ●茨木市の温室効果ガス排出量

1990(平成2)年度から2008(平成20)年度の間、総量では約6%の減少、1人あたり排出量では約13%の減少でした。事業活動に関わる部門である産業・民生業務・運輸部門(自動車貨物)の3部門で全体の7割弱を占めますが、産業部門及び運輸部門(自動車貨物)では減少しました。一方、市民生活に関わる部門である民生家庭部門・運輸部門(自動車旅客)では増加しました。

大きい工場	事業所から出るごみ
中小の工場	家から出るごみ
家庭	車での物の移動
事業所	車での人の移動

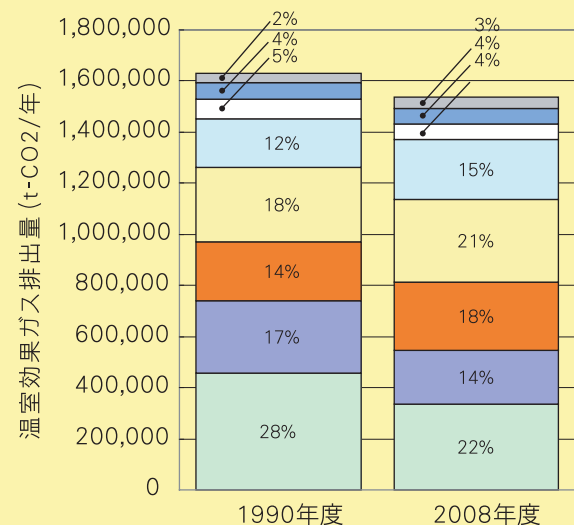


図 各部門層排出量の動向

## 排出量を増加させる現在の生活例

### ●世帯人員の減少による排出量増加

単身世帯の増加や、少子高齢化により、1世帯あたりの人員は、年々減少しています。一方、1世帯あたりの人数が多いほど、1人あたりの温室効果ガス排出量は少ない傾向にあります。1人あたりでは、1人世帯は、4人世帯の約1.5倍の排出量です。

### ●車に依存した生活～自動車保有台数の増加～

市内の自動車保有台数は、1990(平成2)年時点では、10万台程度でしたが、直近5年では、約1.2倍の12万台を超えています。



## 2050年度に向けての取り組みイメージ

### ●茨木市の目標設定(詳細は、次ページに記載)

中期目標:2020年度に市民1人あたり90年度比▲20%  
 長期目標:2050年度に市民1人あたり90年度比▲70% に向けて、取り組みを進めていきます。  
 さらに、長期的な大幅削減に繋がるよう「プロセス目標」を設定します。

- ・大幅削減に繋がるようなモデル(ゼロエネ住宅を販売する工務店の出現)等)
- ・極端な我慢等の特異なものではなく、普及可能なもの
- ・極端な技術革新を要するものではなく、既存技術の改善の延長線上で可能なもの

### ●プロセス目標の視点



●効果例  
 太陽光発電3kWを設置すると、1世帯あたり年間約3%のCO2削減。  
 (年間kWあたり1,000kWh発電と仮定)

新たに建設される住宅、建築物の多くがゼロカーボンに

地域の工務店が取り組む低炭素住宅のロールづくり検討

●効果例  
 省エネナビのモニター画面を意識して、テレビやエアコンなどの無駄なエネルギーを省いたりする等により1世帯あたり10%のCO2削減。  
 (4人世帯、1戸建て平成23年度省エネナビモニター結果)

太陽光発電、太陽熱パネル等導入・普及

排出量温室効果ガス90年比▲70%の低炭素ライフスタイル

部屋や機器をシェアするエコな共同生活によるエコ生活の実現

エネルギーモニターを活用

高効率機器の導入・普及

EV・PHVの導入・普及

●効果例  
 ガソリン車からEVに乗り換えると、1台あたり年間約64%のCO2削減。  
 (ガソリン1.4t-CO2/台・年、EV0.41t-CO2/台・年、平成22年度茨木市地域エネルギービジョンより算出)

資源物の分別徹底

無理なく展開できるエコ通勤の検討

コミュニティサイクル・公共交通の普及

●効果例  
 蛍光灯からLED照明に交換すると、年間約41%のCO2削減。  
 (茨木市中央公園駐車場)

駐車場の電灯や街路灯へLED導入・普及

「いばらき環境家計簿」の実践・普及

省エネ相談会、環境フェアへの参加

地産地消費普及

次世代まちづくりをモデル的ライフスタイルとして発信

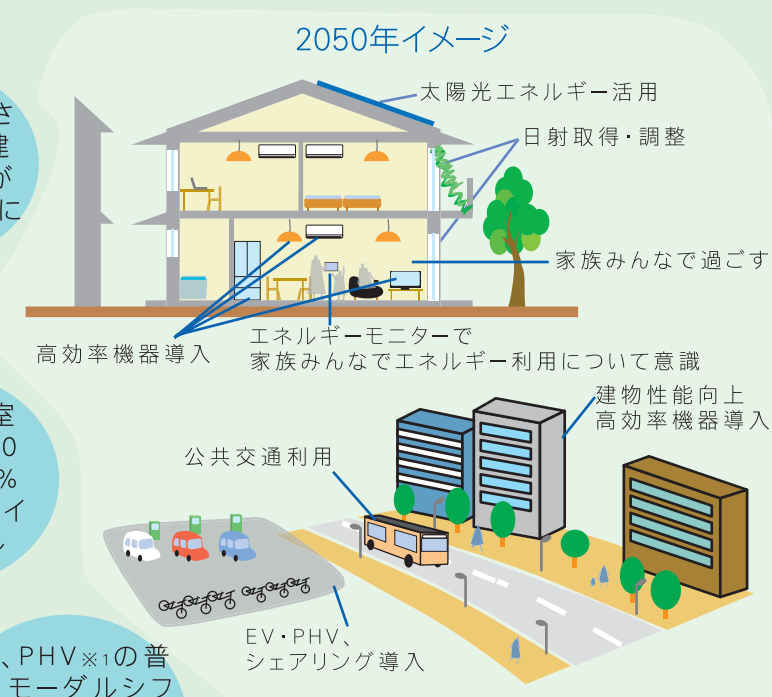
里地・里山における環境学習活動

EV・PHV、シェアリング導入

公共交通利用

高効率機器導入

2050年イメージ



環境学習活動による里地・里山保全

まちがコンパクトに、そして低炭素化

建物性能向上高効率機器導入

地域を取り組みを活用したエネルギー教育

全ての市民に環境意識が根付いている

※1:電気自動車、プラグインハイブリッド自動車のこと。 ※2:貨物や人の輸送手段の転換を図ること。